

静岡地区の進捗状況

日本多施設コーホート研究 (J-MICC 研究) は 2005 年にスタートしました。全国の 10 施設で進められており、2010 年 1 月時点で約 58,000 名の方々にご参加いただいています。静岡地区を含め、3 地区は既に参加者募集を終了し、第 2 回調査の準備を始めています。

静岡地区では 2011 年度に第 2 回調査を実施する予定です。詳細につきましては、次号のニュースレターや研究ホームページ (静岡地区：http://www.med.nagoya-u.ac.jp/yobo/jmicc_shizuoka/) でご案内いたします。

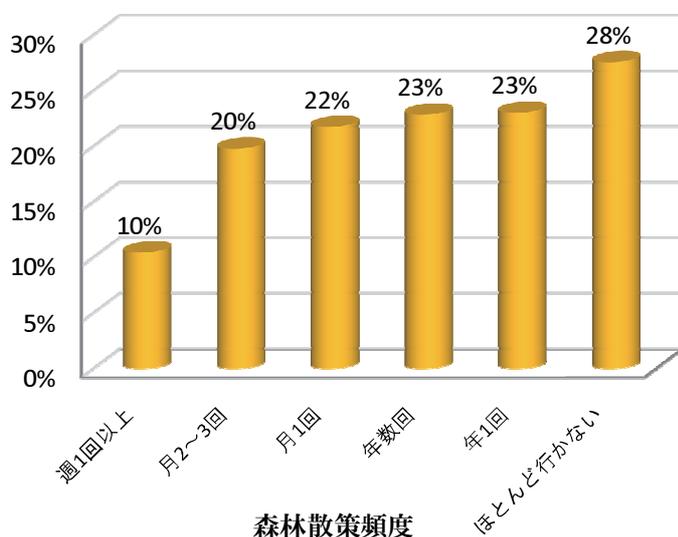
森林浴の効果

森林浴は健康に良さそう、というイメージをお持ちの方も多いと思います。どのような効果があるのかは、まだ研究途上ですが、近年の研究から、効果も次第に明らかになってきています。これまで、森林浴の直後には、ストレスが緩和されていることが報告されていますが、一回だけ良いことをしても、すぐに健康に影響があるとは限りません。一般に、タバコを吸わないなどの良い生活習慣も、続けることではじめて病気の予防や健康維持を期待することができます。よって、森林浴も継続して行えば、(その時だけではなく) 日常にも良い影響があるのではないかと期待していま

す。そこで、皆様にご協力をいただきました調査票を集計して、森林散策をよくしている人は、普段のストレス状態も良いのかどうかを検証してみました。

その結果、図のように、森林浴をよくしている人ほど、日常生活でストレスを感じている人の割合が少ないことがわかりました。つまり、森林浴を頻繁に行えば、(一時的にストレスを緩和するだけではなく) 普段のメンタルヘルスにも良い可能性が出てきました。可能性と書いたのは、この集計では、「森林浴をしているからストレス状態も良い (森林浴⇒低ス

高ストレスの人の割合



トレス)」のか、「時間的にも余裕がありストレスが少ない生活をしているから、森林に頻繁に行くことが出来る（低ストレス⇒森林浴可能）」のかを判定することは出来ないからです。

2011年度から2回目の調査を予定しておりますが、その際に、再度、調査にご協力いただけましたら、「森林浴をしているからメンタルヘルスも良い」のかどうかを検証できます。2回目の調査も是非、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



研究成果のご報告

日本多施設共同コーホート研究では、これまでに以下の研究成果を医学雑誌や学会で発表しました。皆さまのご理解ご協力を感謝申し上げます。

J-MICC 全体に関する論文掲載

1. The J-MICC Study Group. The Japan Multi-institutional Collaborative Cohort Study (J-MICC Study) to detect gene-environment interactions for cancer. (邦訳：がんの遺伝子環境交互作用を見つけ出すための日本多施設共同コーホート研究 (J-MICC Study)) *Asian Pac J Cancer Prev.* 2007;8:317-323.
2. Naito M, Eguchi H, Okada R, Ishida Y, Nishio K, Hishida A, Wakai K, Tamakoshi A, Hamajima N, for the J-MICC Study Group. (邦訳：日本多施設共同コーホート研究 (J-MICC Study) で保存されている血液検体の劣化状況をモニタリングするためのコントロール検体) Controls for monitoring the deterioration of stored blood samples in the Japan Multi-institutional Collaborative Cohort Study (J-MICC Study). *Nagoya J Med Sci.* 2008;70: 107-115.

J-MICC 全体に関する学会発表

1. 第 65 回日本癌学会学術総会 2006 年 9 月 28-30 日、横浜
内藤真理子、江口英孝、石田喜子、西尾和子、若井建志、玉腰暁子、浜島信之：日本多施設共同コーホート研究 (J-MICC Study) におけるコントロール血液検体
2. 第 18 回日本疫学会学術総会 2008 年 1 月 25-26 日、東京
石田喜子、江口英孝、西尾和子、岡田理恵子、内藤真理子、若井建志、浜島信之 for J-MICC Study Group：日本多施設共同コーホート研究 (J-MICC Study) におけるコントロール血液検体の保存 (第 2 報)
3. UICC World Cancer Congress 2008 年 8 月 27-31 日、ジュネーブ
Hamajima N for the J-MICC Study Group: Multi-institutional genomic cohort in Japan (邦訳：日本における多施設共同のゲノムコーホート研究)
4. 第 67 回日本癌学会学術総会 2008 年 10 月 28-30 日、名古屋
Wakai K, Hamajima N, Study Group J-MICC: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study (邦訳：日本多施設共同コーホート (J-MICC) 研究)

静岡地区独自の研究に関する論文掲載

1. Asai Y, Naito M, Suzuki M, Tomoda A, Kuwabara M, Fukuda H, Okamoto A, Oishi S, Ikeda K, Nakamura T, Misu Y, Takase S, Tokumasu S, Nishio K, Ishida Y, Hishida A, Morita E, Kawai S, Okada R, Wakai K, Tamakoshi A, Hamajima N. Baseline data of Shizuoka area in the Japan Multi-institutional Collaborative Cohort Study (J-MICC Study). (邦訳：日本多施設共同コーホート研究 (J-MICC Study) の静岡地区におけるベースライン情報) *Nagoya J Med Sci.* 2009;71:137-144.

2. 森田えみ、内藤真理子、西尾和子、石田喜子、菱田朝陽、若井建志、浅井八多美、浜島信之：人間ドック受診者を対象とした静岡県中西部地区における森林散策頻度に関する大規模調査。日本森林学会誌〔印刷中〕
3. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Ikebuchi Y, Ito K, Kusanagi Y, Chiba T, Tadokoro S, Takada Y, Oikawa Y, Inoue H, Suzuki K, Okada R, Nishiyama J, Domoto H, Watanabe S, Fujita M, Morimoto Y, Naito M, Nishio K, Hishida A, Wakai K, Asai Y, Niwa K, Kamakura K, Nonoyama S, Sakurai Y, Hosoya T, Kanai Y, Suzuki K, Hamajima N, Shinomiya N. Common defects of *ABCG2*, a high-capacity urate exporter, cause gout: a functional-based genetic analysis in a Japanese population. (邦訳：痛風の原因と考えられる尿酸の排出輸送隊 *ABCG2* 遺伝子における共通の遺伝子欠損；日本人集団における遺伝子機能解析) *Science Translational Med* 2009;1:41-48.

静岡地区独自の研究に関する学会発表

1. 第29回日本がん疫学研究会 2006年5月19-20日、広島
内藤真理子、西尾和子、石田喜子、長船智、浜島信之、浅井八多美、鈴木ます美、金子ひろみ、田中美香、深田裕子、玉腰暁子：J-MICC Study 静岡フィールドでの参加率
2. がん予防大会2008福岡 2008年5月22-23日、福岡
石田喜子、西尾和子、菱田朝陽、内藤真理子、若井建志、浜島信之、浅井八多美：浜松における分子疫学研究のベースライン調査同意率の検討
3. がん予防大会2009愛知 2009年6月16-17日、名古屋
内藤真理子、西尾和子、石田喜子、菱田朝陽、森田えみ、川合紗世、岡田理恵子、若井建志、浜島信之、玉腰暁子、浅井八多美、鈴木ます美、友田あき子、桑原真弓、深田裕子、中村月乃、岡本あゆみ、池田佳名子、三須寧子、片瀬史朗、徳増諭、鈴木妃佐子、大石早知絵：J-MICC Study 静岡フィールドのベースラインデータに関する検討
4. 第68回日本癌学会学術総会 2009年10月1-3日、横浜
 - 1) Naito M, Hishida A, Wakai K, Morita E, Kawai S, Okada R, Tamakoshi A, Hamajima N: Association of diabetes mellitus and BMI with the prostate-specific antigen concentration in Japanese men. (邦訳：日本人男性における糖尿病およびBMIと前立腺特異抗原との関連)
 - 2) Morita E, Naito M, Hishida A, Kawai S, Okada R, Wakai K, Hamajima N: Association of endothelial constitutive nitric oxide synthase genotype (*ecNOS*) and hyperuricemia among Japanese men. (邦訳：日本人男性における内皮型一酸化窒素合成酵素遺伝子多型 (*ecNOS*) と高尿酸血症との関連について)
 - 3) Kawai S, Naito M, Hishida A, Morita E, Okada R, Wakai K, Hamajima N: Associations of serum gamma-glutamyl transferase with smoking and obesity among Japanese healthy adults. (邦訳：健康な日本人における血清γ-GTP値と喫煙および肥満との関連)
5. Asia Pacific Cancer Conference 2009年11月12-14日、筑波
Naito M, Hishida A, Wakai K, Nishio K, Ishida Y, Morita E, Kawai S, Okada R, Tamakoshi A, Fukada Y, Okamoto A, Suzuki M, Tomoda A, Kuwabara M, Katase S, Asai Y, Hamajima N: Associations of tea consumption with the prostate-specific antigen concentration in Japanese men. (邦訳：日本人男性における緑茶の摂取と前立腺特異抗原の関連)
6. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and 20th Japan Epidemiological Association 2010年1月9-10日、埼玉
 - 1) Naito M, Hishida A, Wakai K, Nishio K, Ishida Y, Morita E, Kawai S, Okada R, Tamakoshi A, Fukada Y, Okamoto A, Suzuki M, Tomoda A, Kuwabara M, Katase S, Asai Y, Hamajima N: Association of leisure time physical activities with the prostate-specific antigen concentration in Japanese men. (邦訳：日本人男性における余暇の身体活動度と前立腺特異抗原の関連)
 - 2) Kuriki S, Okada R, Hishida A, Kawai S, Morita E, Naito M, Wakai K, Asai Y, Hamajima N: Frequency of the *SLC22A12* W258X polymorphism among those with low serum uric acid. (邦訳：血清尿酸値の低い人における *SLC22A12* W258X 遺伝子多型の頻度)
 - 3) Morita E, Naito M, Hishida A, Nishio K, Ishida Y, Wakai K, Asai Y, Hamajima N: Forest walking (Shinrin-yoku) frequency is associated with mental stress status: cross-sectional study on Shizuoka Area of the Japan Multi-Institutional Collaborative Study (J-MICC). (邦訳：静岡地区における横断研究により森林浴頻度は精神的なストレスと関連が認められた)

主任研究者から皆様へのお知らせ

平成 22 年 3 月 12 日

日本多施設共同コーホート研究（J-MICC 研究）参加者の皆さま

本研究へのご協力誠にありがとうございます。皆さまのご協力により、本研究の募集も順調に進んでおり、これまでに全国で 58,000 人以上の方々にご参加いただいています。

本研究で収集されました検体に関しましては、名古屋大学の中央事務局で継続管理をしております。今回、検体管理作業中に検体提供の同意に不備があるものが把握されましたので、ここにご報告申し上げます。本件の概要については研究ホームページ（<http://www.jmicc.com/>）に掲載しております。なお、不備が見つかりました検体は、聖隷予防検診センターで参加されました方のものではございません。

今後とも、引き続き本研究へのご理解ご協力をお願い申し上げます。

日本多施設共同コーホート研究 主任研究者
名古屋大学大学院医学系研究科予防医学 教授
浜島 信之

J-MICC Study 各地区の進捗状況（参加者数は 2010 年 1 月末時点）

こちらでは、現在までの J-MICC Study 各地区（J-MICC 連合除く）の進捗状況をご報告します。

研究機関名(参加者数)	進捗状況
千葉県がんセンター（6,279 名）	印西市と我孫子市の住民を対象にベースライン調査実施中。
名古屋大学 静岡地区（5,028 名）	聖隷予防検診センターの人間ドック受診者を対象にベースライン調査を実施。現在、追跡調査実施中。
名古屋大学 大幸地区（4,403 名）	名古屋市の住民を対象にベースライン調査実施中。
名古屋市立大学（5,616 名）	岡崎市医師会公衆衛生センターの人間ドック受診者を対象にベースライン調査実施中。
愛知県がんセンター（5,876 名）	愛知県がんセンター受診者を対象にベースライン調査実施中。
滋賀医科大学（2,972 名）	高島市の住民を対象にベースライン調査実施中。
京都府立医科大学（851 名）	京都市内の人間ドック受診者および京都府内の企業健診受診者を対象にベースライン調査実施中。
徳島大学（412 名）	徳島県総合健診センターの人間ドック受診者を対象にベースライン調査実施中。
佐賀大学（12,078 名）	佐賀市の住民を対象にベースライン調査を実施。現在、追跡調査実施中。
鹿児島大学（5,032 名）	5 島(奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島)の 1 市 9 町で地域住民を対象にベースライン調査実施。現在、追跡調査実施中。

研究に関する問い合わせ先：

◆名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65 TEL 052-744-2132（平日 9:30～16:30） FAX 052-744-2971

◆聖隷予防検診センター 健診看護課 担当：桑原

〒433-8558 浜松市北区三方原町 3453-1 TEL 053-439-1115（平日 9:00～16:30）